

令和7年度 第1回帯広市社会教育委員会議 議事要旨

1 日 時 令和7年6月30日(月) 18:30~20:15

2 会 場 帯広市役所 10階 第5AB会議室

3 出席委員 千葉 佳貴、大宮 秀夫、山田 知史、阿部 好恵、矢野 充、鳴海 亮、
今野 敏幸、藤森 元恵、野村 勇、久保田 博己、三浦 真希子、
小沢 俊幸、佐藤 康則

(以上13名、敬称略)

4 事務局 生涯学習部長 村木 章純、生涯学習文化室長 天池 文彦、生涯学習文化
課課長 米通 朋樹、生涯学習文化課課長補佐 金須 健裕、生涯学習文化
課生涯学習係主任補 濱 しおり

(以上5名)

5 講 師 帯広畜産大学ボランティア団体 とことこあるこう
代表 宮本 彩名 氏、副代表 新居田 温 氏

6 会議次第

(1) 開会

(2) 委嘱状交付

(3) 挨拶 帯広市教育委員会 生涯学習部長 村木 章純

(4) 職員紹介

(5) 議事

①講話「帯広畜産大学ボランティア団体 とことこあるこうについて」

②今期の調査・研究について振り返り

③報告事項

(6) 閉会

7 議事要旨

(1) 講話「帯広畜産大学ボランティア団体 とことこあるこうについて」

① 講話内容

- ・とことこあるこうは「地域課題解決」「国際交流」「自然保護」の三本の軸をも
って活動している。具体的な事業としては、買い物支援やお話ボランティア等
の高齢者福祉、草刈り・雪かき事業、勉強のサポートと子ども食堂を兼ねた学
習支援や子ども関連イベント、国際ボランティア、ゴミ拾い等多岐にわたる。
- ・とことこあるこうで立ち上げた事業の例として、地域の高齢者交流のためのラ

ジオ体操がある。当初はラジオ体操を実施する公園の近隣宅にチラシを投函して周知を図っていたが、今年は町内会だよりに掲載してもらったことで、去年10人に満たなかった参加者が15人を超えるまでに増加した。ラジオ体操は大学生と地域の高齢者との交流の場になるほか、町内会とは違うご近所同士の新しいコミュニティの形成に繋がっている。

- ・とことこあるこうでは「チャレンジ精神」「問題提起」「課題解決」の3つを目標に掲げており、この3つを兼ね備えた学生を増やしていくことを目指して、一緒に成長していける仲間を募りながら活動している。

② 講話後の質疑

○委員

ボランティアサークルに入ったきっかけは。

○新居田氏

大学に入学して、これから6年間住むことになる帯広に何か還元できることはないかとの思いが元々あったなかで、このボランティアサークルに入ることによって地域に恩返しできることがあるかもしれないと思い、活動を始めた。大学外の人と関わることも多いので自分の世界が広がると日々感じている。

○宮本氏

元々は環境関係に興味があり、環境保全や外来種駆除を目的にサークルに入った。今では子ども関連や高齢者福祉など、取り組みすべてに興味広がった。多様な分野でボランティアを展開しているからこそ、一つの興味から色々なボランティアを知ることが出来るのが、このサークルの強みだと思う。

○委員

ボランティアは依頼を受けて活動するのか。

○宮本氏

基本的には依頼を受けて活動している。また、その依頼が団体の理念に沿っているのか、学業と両立できるのかを吟味して依頼を受けるようにしている。

○委員

苦労したことや上手くいかなかったことはあるか。

○新居田氏

苦労したと感じたことは、学生ということもあり活動時間が限られる中で依頼が多くて受けきれないものがあることや、依頼の見定めが必要となること。単純に学

生の労力を当てにされているだけだと思えるものもあり、「どこまでがボランティアか？」という線引きが難しい。

○宮本氏

メディアに取り上げられることで依頼が多くなり、一つひとつの依頼に対する参加率が低くなることもある。そのため人数を集められないのではないかというプレッシャーや、期待に応えられないのではないかという焦りを感じることもある。また、メンバーがボランティアに関心を向けてくれるような方法を考えたり、サークル活動の楽しさの部分とボランティア部分の割合について模索したりすることが、現在進行形で苦勞しているところ。

○委員

ボランティア活動にお金が出るか、出ないかで依頼を受けるかどうかの線引きはあるか。

○新居田氏

有償か無償かは依頼を受ける際の判断基準には入っていない。先ほどの話と重複するが、有償・無償に限らず、「この活動はボランティアなのか？」を幹部で考え、自分たちが気持ち良く参加（活動）できるかどうかを基に判断している。

○委員

活動資金はどうしているのか。

○新居田氏

現在 11 社ほどのスポンサー企業から活動資金をいただいている。そのように支援をしていただいて活動しているので、地域に還元したいという思いが強くある。今日着てきたこの活動 T シャツにもスポンサーのロゴを載せている。

○委員

高齢者宅に伺うとの話もあったが、自分たちのリスク管理はどのようにしているのか。

○宮本氏、新居田氏

サークル団員はボランティア保険に加入しているのと、高齢者宅への訪問は特別養護老人ホームのケアマネジャーを通して依頼があるので、事前にケアマネジャーの方である程度選定はしてくれている。また、雪かきや草刈りの活動も幹部が事前に依頼者宅に伺って面談をさせてもらい、依頼者の人となりや会話の様子から活動の可否を判断してトラブルを避けられるように努力している。

○委員

学習支援で子ども食堂をしているとのことだが、どれくらいの人が利用しているのか。また、大学生がメニューを作っているとのことだが、アレルギー対策はどのようにしているのか。

○宮本氏

現在学習支援は10名強が利用している。その中にアレルギーを持っている子がいないので、現在は特に考慮していない。ただ、子どもたちが好き嫌いで食事を残したりすることがあるので、食育的な部分もやっていけたらと思っている。

○委員長

宮本さん、新居田さんから、皆さんに質問したいことがあれば。

○宮本氏

私たちボランティア団体に期待することは何か教えてほしい。

○委員

帯広にはジュニアリーダー“あるふあ”の会という中高生がボランティア活動等をする会があるが、卒業した後のシニアリーダーの会はない。高校を卒業すると帯広を離れてしまう人も多く、帯広でのボランティア体験が途切れてしまう。大人になってもボランティアを継続していけるように、みなさんのような方たちが中高生ボランティアから大人のボランティアまでへと繋げてくれるような存在になってもらえるとありがたい。

(2) 今期の調査・研究について振り返り

事務局で作成した「帯広市社会教育委員会議 調査研究の記録」を配布し、今期を振り返っての所感を各委員に伺った。

○委員

- ・若い人の話をたくさん聞けて、励みになった。「これからもまだまだ頑張らないと」と思わせられた。これからに活かしていきたい。
- ・いろんな活動をされているのだなど、地域の事を知ることができた。
- ・自分にとっても職場である学校にとっても勉強になる。得た学びを還元していきたい。
- ・若い人が継続してボランティア活動できるような社会の仕組み、環境になればと思った。また、話を聞くことが刺激になり、自分たちは何ができるかを考えながら参加させてもらった。

- ・学生たちは高度なことを自分たちで主体的にやっている。今まさに取り組んでいることを聞かせていただき、とても勉強になった。また社会教育委員についてだが、女性委員が少ないという印象を受けた。会議が夜になると参加が難しいところがある。会議に参加できるツールを増やせないか等検討してもらえるとありがたい。
- ・今回の企画は懐かしい気持ちになった。自分の事を鑑みるいい機会になり、自分なりにいろんなことを感じさせてもらった。いい企画だったと思う。
- ・今の学生はしっかりしていて社会貢献に対する意識が高く、大人と関わることを楽しんでいると感じた。応援していきたいと思った。
- ・調査研究を通して、色々な活動をしている人がいることを知った。現在は各活動がそれぞれ点の状態となっていると感じるが、誰かが繋げて線にしていくことで、大きな組織として動かせないかと思った。
- ・一人の親として、そして大人としての振る舞いを考えるいい機会になった。
- ・今の学生はしっかりしていると思った。刺激になった一年だった。
- ・久々に高校生の話を聞けて、探求的な学習が段々と浸透されてきたかなと感じた。主体的、対話的なものが身についてきている。この子たちのような若者がハブ的な役割となって、未来の若者が社会と繋がっていってもらえればと思った。
- ・普段活動するジャンルとは違う社会教育という分野だが、自分なりの意見を話していき、委員のみなさんとも対話していきたいと思った。

○委員長

- ・社会教育は幅広い分野であると改めて思うところ。
- ・社会教育委員会議の時間や場所、ツールについての意見について、時間を早くすると出られない人、遅くすると出られない人、ハイブリット開催にすると対応できない人など様々で簡単にはいかないかとは思いますが、帯広市と協議しながらできることを考えていきたい。
- ・地域活動のアピールやどう繋げるかについて意見があったが、現状ではそれぞれの活動を繋いでくれる人はなかなかいない。そういった仕組みがあると、会議の場で知ったことを活かしていけるのではないかと思うところではある。
- ・団体やボランティアも高齢化していきっており、次世代にどう繋げていくかが課題と感じるところ。これから先を見据えると、大人だけではなく若い世代も一緒に協働していくことが大切だと個人的に思っている。
- ・調査研究で得た学びは、これからの会議や地域づくりなどに活かしていきたい。

(3) 報告事項

第 64 回北海道社会教育研究大会の案内及び委員改選と次回の会議開催予定について

て報告。

〈意見・質問なし〉

以上